

実施報告書

2024 年度日系社会次世代育成研修
(中学生招へいプログラム) 第 1 陣

2024 年 6 月 17 日~7 月 10 日



2024 年 9 月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

公益財団法人海外日系人協会

目次

1. 日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）の概要	2
2. 参加者情報	4
3. 2024年度第1陣 プログラム日程	5
4. プログラム内容	6
5. 引率者の所感	25
引率者 赤星 美妃（メキシコ）	
6. 総評	26

【参考】2024年度「日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）」募集要項

1. 日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）の概要

(1) 研修の沿革および目的

本研修は独立行政法人国際協力機構（JICA）が中南米地域への移住者の定着・安定のために移住者子弟教育として1987（昭和62）年度に「日本語学校生徒研修」として開始し、2012（平成24）年度からは、名称を「日系社会次世代育成研修」、2015（平成27）年度からは「日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）」として実施しています。

本研修では、海外の日本語学校に在籍する成績優秀かつ品行方正で将来の日系社会の発展に貢献するのに十分な素質のある日本語学校生徒が、日本人の海外移住の歴史に関する学習、中学校体験入学、ホームステイ、その他の各種研修を通じて、自分たちのルーツに対する理解と日本に対する理解を深め、さらに自らの日系人としてのアイデンティティの強化を図ることを目的としています。

さらには、本研修が日系社会での日系継承語教育の振興を促し、日系社会の次代を担う人材の育成に寄与することを上位の目標としています。

(2) 対象国および人数

通常：第1陣は5カ国13名、第2陣は5カ国36名の10カ国49名（他引率者2名）

第1陣：カナダ、メキシコ、ドミニカ共和国、コロンビア、ベネズエラ

第2陣：ブラジル、ペルー、ボリビア、パラグアイ、アルゼンチン

2024年度：第1陣は5カ国15名（他引率者1名、安全・健康管理員3名）で実施

※新型コロナウイルス感染拡大により、2020～2022年度に本研修が中止になったことから、その間研修への参加機会を得られなかった高校生相当（16歳以上18歳以下）の子弟を、2023年度ならびに2024年度第1陣に関して受け入れています。

研修員出身国内訳

受入		対象国	研修員参加者数	備考	引率者、安全・健康管理員
第1陣	5カ国15名 (引率者1名、安全・健康管理員3名)	カナダ	4名 (男1名、女3名)		0名 (男0名、女0名)
		メキシコ	3名 (男2名、女1名)		1名 (男0名、女1名)
		ドミニカ共和国	6名 (男3名、女3名)	通常4名のところ6名受け入れ、内1名高校生相当	1名 (男0名、女1名)
		コロンビア	1名 (男1名、女0名)		1名 (男0名、女1名)
		ベネズエラ	1名 (男0名、女1名)		1名 (男1名、女0名)
計			15名 (男7名、女8名)		4名 (男1名、女3名)

(3) 研修期間

現地の学校事情に合わせ、上記(2)のとおり2グループに分けて実施しています。

第1陣：毎年度6月第2～3週から24日間程度

第2陣：毎年度1月第2～3週から24日間程度

(4) 研修概要

プログラム	内容	研修場所
移住学習	海外移住資料館の見学 移住に関する講義、ワークショップ 各研修員のルーツを探る	JICA 横浜 史跡、博物館等
体験入学	授業出席 部活動 日本の中学生との交流等	横浜市内の中学校
ホームステイ	日本での実生活体験 ホストファミリーとの交流	神奈川県近郊の各ご家庭
研修旅行、 所外研修	神社仏閣・城の見学、日本文化体験、 社会教育施設・博物館等の見学	関西方面、 神奈川県近郊
その他	プレゼンテーション指導 作文指導 研修報告会	JICA 横浜

2. 参加者情報

No.	国名	所属日本語学校名 /所在地	①日本で体験したいこと ②趣味・特技等	得意な 学科
1	カナダ	日修学院 /オンタリオ州トロント	①日本の中学校の体験、ホームステイ ②絵画、イラスト、ビーズ手芸	フランス語 美術
2	カナダ	日加学園 /オンタリオ州トロント	①中学校で授業を受けてみたい ②ピアノ、日本語の漫画、本を読むこと（意味が分かるとおののく話、新世紀エヴァンゲリオン）	理科
3	カナダ	JEC日本語教育センター /ブリティッシュコロンビア州バンクーバー	①カフェでアルバイト、美術館・博物館巡り、都会の中心地を歩いてみたい ②読書、お菓子作り、言語を習得すること（スペイン語、中国語）	English (国語) 化学
4	カナダ	ビクトリアヘリテッジ日本語学校 /ブリティッシュコロンビア州ビクトリア	①日本の暮らしを体験したい、日本語ももっとスムーズに話せるようになりたい ②陸上、ピアノ、漫画、アニメ	体育 音楽
5	メキシコ	(社) コルシャウキ文化センター /モレロス州クエルナバカ	①日本の中学校を知りたい、日本料理を習いたい ②編み物、料理	言語 数学科 理科
6	メキシコ	日本メキシコ学院 /メキシコ連邦区メキシコシティ	①世界の友達と知り合うこと、日本の文化を知りたい ②バスケットボール	体育 地理 数学
7	メキシコ	日本メキシコ学院 /メキシコ連邦区メキシコシティ	①日本の文化と伝統を習いたい ②水泳、読書、ビデオゲーム	-
8	ドミニカ共和国	ドミニカ共和国日本語学校 サント・ドミンゴ校 /サント・ドミンゴ市	①桜・たぬき・白くまを見たい、お寺に行きたい ②水泳、散歩	数学
9	ドミニカ共和国	ドミニカ共和国日本語学校 サント・ドミンゴ校 /サント・ドミンゴ市	①日本料理を食べたい、日本の文化を知りたい、おばあちゃんに会いたい ②テニス、ピアノ、料理	-
10	ドミニカ共和国	ドミニカ共和国日本語学校 サント・ドミンゴ校 /サント・ドミンゴ市	①文化、日本食 ② -	自然科学
11	ドミニカ共和国	ドミニカ共和国日本語学校 サント・ドミンゴ校 /サント・ドミンゴ市	①日本の文化を勉強したい ②スポーツ	数学
12	ドミニカ共和国	ドミニカ共和国日本語学校 ハラバコア校 /ラ・ベガ州ハラバコア市	①日本語、日本の文化 ② -	数学 国語
13	ドミニカ共和国	ドミニカ共和国日本語学校 ダハボン校 /ダハボン州ダハボン市	①日本の文化や食べ物を知りたい ②ゲーム、バスケットボール	理科
14	コロンビア	コロンビア日系人協会付属 日本語センター光園 /バジェ県カリ市	①日本文化・日本食について学びたい、新しい日系の友達をつくりたい ②ピアノ、チェス、バスケットボール	数学
15	ベネズエラ	カラカス日本語教室 /ミランダ州カラカス市	①日本人の生活、日本語を聞く、日本の文化、食べ物、祖母に会いたい ②本を読むこと、音楽を聞くこと、ゴルフ	数学

引率者	メキシコ	日本メキシコ学院 メキシココース総校長アシスタント /メキシコ連邦区メキシコシティ
安全・健康管理	ドミニカ共和国	ドミニカ共和国日本語学校 サント・ドミンゴ校 アシスタント /サント・ドミンゴ市
安全・健康管理	コロンビア	コロンビア日系人協会付属日本語センター光園 日本語教師 /バジェ県カリ市
安全・健康管理	ベネズエラ	ソフトウェアエンジニア /ミランダ州カラカス市

3. 2024年度第1陣 プログラム日程

2024年度JICA日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）第1陣 日程

つき	日	午前				午後			夜	備考
		朝の会 9:30	1限 9:40-10:30	2限 10:40-11:30	3限 11:40-12:30	4限 14:00-14:50	5限 15:00-15:50	6限 16:00-16:50		
6	17	月	来日（教材・備品の配布・自己紹介、うわばき採寸など）						なし	ホテル チェックイン
	18	火	朝の会	来日ブリーフィング	開講式	アイスブレイク		夕方の方の会	○	
	19	水	朝の会	来日アンケート、目標設定、 中学校体験プレゼンテーション準備		体験入学オリ		夕方の方の会	○	
	20	木	所外研修（日本文化学習、環境学習）						○	
	21	金	朝の会	中学校体験準備 プレゼンテーション作成		中学校 事前挨拶		なし		
	22	土	休日（希望者でJICA横浜周辺を散策します）						なし	ふくりこうせい 福利厚生①
	23	日	休日						○	
	24	月	朝の会	日本で学ぶ		移住学習①		夕方の方の会	○	
	25	火	朝の会	移住学習②		よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト		夕方の方の会	○	
	26	水	中学校		体験入学			○		
27	木	中学校		体験入学			○			
28	金	中学校		体験入学			○	ホームステイ オリエンテーション		
29	土	ホームステイ						なし	ホストファミリーのお家で宿泊	
30	日	ホームステイ						○		
7	1	月	朝の会	研修旅行事前学習		パッキング・荷物準備		荷物移動	○	
	2	火	研修 旅行（大阪）						○	ホテル チェックアウト/朝 旅行先で宿泊
	3	水	研修 旅行（奈良）						○	旅行先で宿泊
	4	木	研修 旅行（神戸）						○	ホテル チェックイン/夜
	5	金	朝の会	国語	報告書 作成		夕方の方の会	なし		
	6	土	休日（希望者で横浜近郊を散策します）						なし	ふくりこうせい 福利厚生②
	7	日	休日						○	
	8	月	朝の会	帰国ブリーフィング・ 帰国アンケート	報告会 準備/発表 練習		荷物 準備/荷物 計量		○	引率者 報告会
	9	火	朝の会	報告会 準備/リハーサル		(15:00-16:00) 研修員 報告会	(17:00-17:30-18:00) 閉講式・送別会		○	
	10	水	帰国 ※カナダ、メキシコ、コロンビア、ベネズエラ研修員							ホテル チェックアウト

※ドミニカ共和国研修員は、フライト事情により7月12日（金）帰国。

4. プログラム内容

来日

2024年6月17日（月）

研修員 15 名と引率者 4 名が、カナダ、メキシコ、ドミニカ共和国、コロンビア、ベネズエラの 5 か国から来日しました。

早朝から夜にかけて、それぞれの国から成田空港・羽田空港へ到着した研修員たち。JICA 横浜センターまで、もうひと踏ん張りです！

最後のグループが宿泊ホテルに着いたときには、すでに長旅の疲れで就寝してしまった研修員も…。お互いの自己紹介は明日までおあずけです。



開講式

2024年6月18日（火）



研修初日の今日は、くしくも「海外移住の日」。日本からの移民をのせた笠戸丸が 1908 年のこの日にブラジルのサントス港に入港したことにちなみ制定された記念日です。

開講式では、JICA 横浜センターの大野裕枝所長より、この研修における 3 つの大事なことについてお話がありました。

- ① この研修が横浜で行われる理由
- ② この研修でみなさんに学んで欲しいこと
- ③ 日系社会、日系人のみなさんに期待していること

です。少し緊張した面持ちの研修員たちでしたが、真剣に耳を傾け、しっかりと所長のメッセージを受け取りました。



また、研修員からは一人ひとり自己紹介がありました。代々この研修に参加してきた先輩たちとおなじ、ブルーのユニフォームに身を包んで研修をスタートするのはどんな気持ちだったのでしょうか。それぞれ、好きなことや得意なこと、この研修で楽しみにしていることや日本で頑張りたいことなどについて、日本語で紹介しました。

アイスブレイク

2024年6月18日(火)

国や地域を越えて集まった15名の研修員たち。開講式のあと、さっそくお互いをよく知るためのアクティビティを行いました。

色々なゲームや活動を通して緊張や不安はほぐれていき、言語の壁もなんのその！気づくとコミュニケーションが生まれていました。



研修員の振り返りから

- ◇ 今日の授業で感じたことは、うれしさや、楽しさ、みんなと仲良くなりたいという気持ちです。私は、一緒に日系人がたくさんいてびっくりしました。
- ◇ このグループはとても楽しいと思います。言葉のかべがなければもっと仲良くなれると思います。日本語をよく話せない子たちはできるだけ日本語を使えばもっと上手になると思います。1ヶ月後にはこのグループの人みんなと気軽に話せたらいいと思います。(他の言葉を使っても)
- ◇ 今日はとても良い気分でした。仲間のことをより深く知ることができ、より一体化できたと思います。
- ◇ ことばがあまりつうじなくても、おたがいをよくしることができました。きょうはとてもたのしいいちにちで、あたらしいともだちができたのがうれしかったです。

研修目標設定・体験入学準備など

2024年6月19日(水)

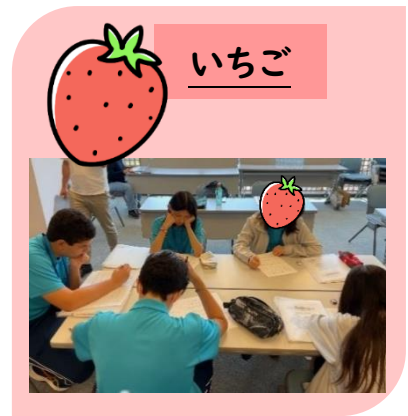
- グループ(生活班)に分かれて顔合わせ。班長/副班長/パトロール係/先生お助け係/音楽・スポーツ係を決めたあと、グループ名をみんなで考えました。



カピバラ

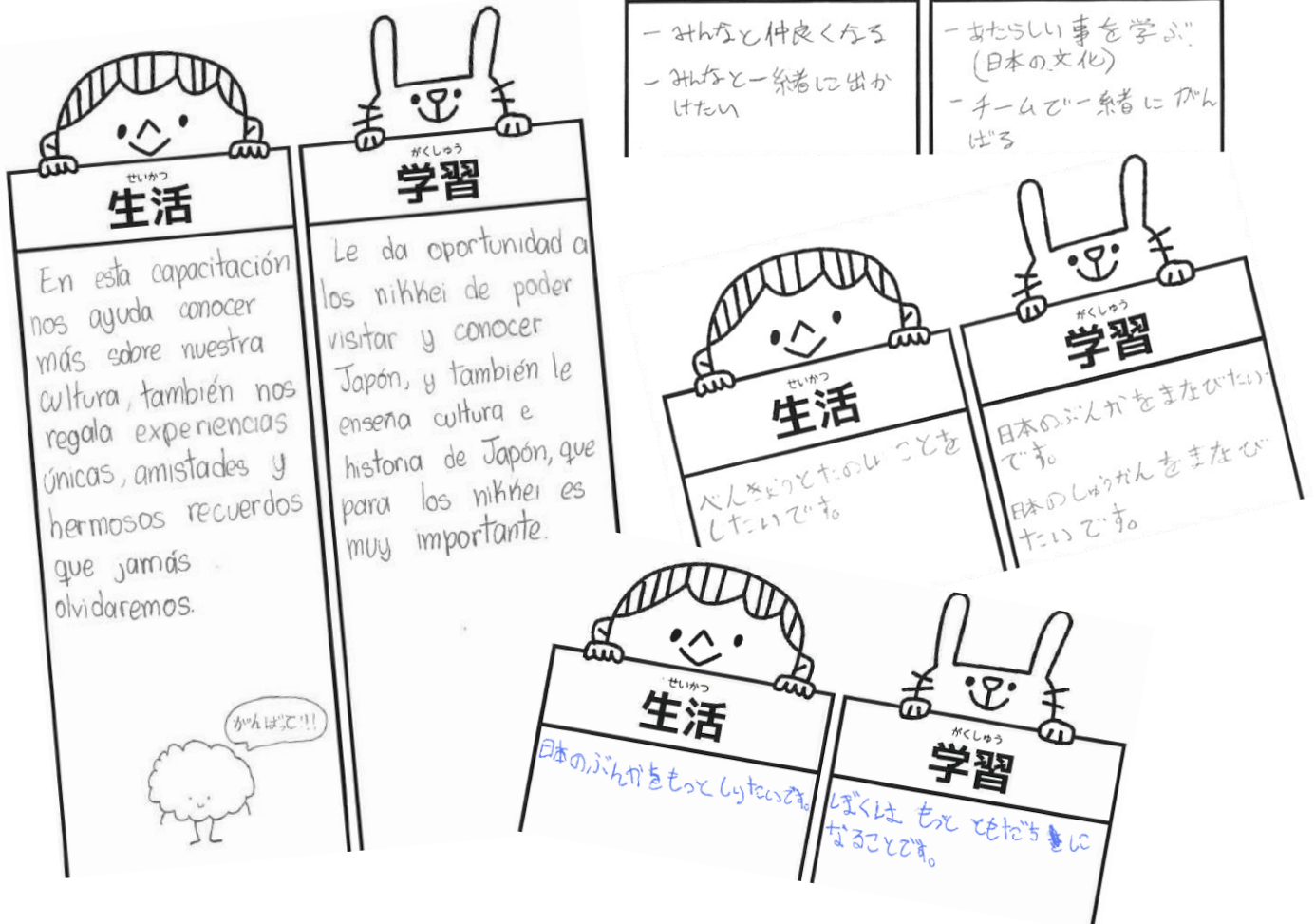


パンダ



いちご

- 一人ひとり、研修中の目標を立てました。慣れない日本語で頑張って書いたり、普段つかっている言語でしっかりと自分の想いを書き留めたりしました。



➤ 横浜市中区の公立中学校に体験入学するための準備をしました。

準備 その1 一緒に登下校する仲間を確認！

- 体験入学では、4つの中学校に3~5名ずつお世話になります。同じ中学校に行くメンバー同士、初顔合わせ。
- みんなで話し合っ、リーダーとサブリーダーを決めました。

準備 その2 日本の中学校のルールを知る！

- 日本の中学校のルールについて学びました。
- 自分の国の学校とどんなところが違うのか、また、どうしてこのようなルールがあるのかなどを考えました。

準備 その3 自己紹介プレゼンテーションを予行練習！

- 中学校に行ったら、パソコンを使って自己紹介する時間をいただいています。まずは研修の仲間たちの前で、一人ひとり予行練習しました。
- 仲間のことをよく知る機会になったと同時に、他の研修員の発表を見ることで自分のプレゼンテーションに足りない点などに気づくことができました。少し手直しをして、中学校での本番に臨みます。

所外研修

2024年6月20日(木)

日本の環境への取り組みという側面から現代の日本を探ることができるよう、川崎市立日本民家園とかわさきエコ暮らし未来館を訪問し、所外研修を行いました。

民家園では「昔」の、未来館では「現代」の日本事情をそれぞれ知ることができ、日本には今も昔も変わらずに物を大切にするという文化が暮らしの中に根付いていることを実感しました。

日本文化学習

川崎市立
日本民家園

日本の古い家が魅力的だった、家の中にある囲炉裏、天井などが興味深かったという感想にとどまらず、「テクノロジーがない時代には物を全部リサイクルしたり、他の物に使っていたと思う」と当時の生活を想像するコメントも聞かれました。



環境学習

かわさきエコ暮らし未来館

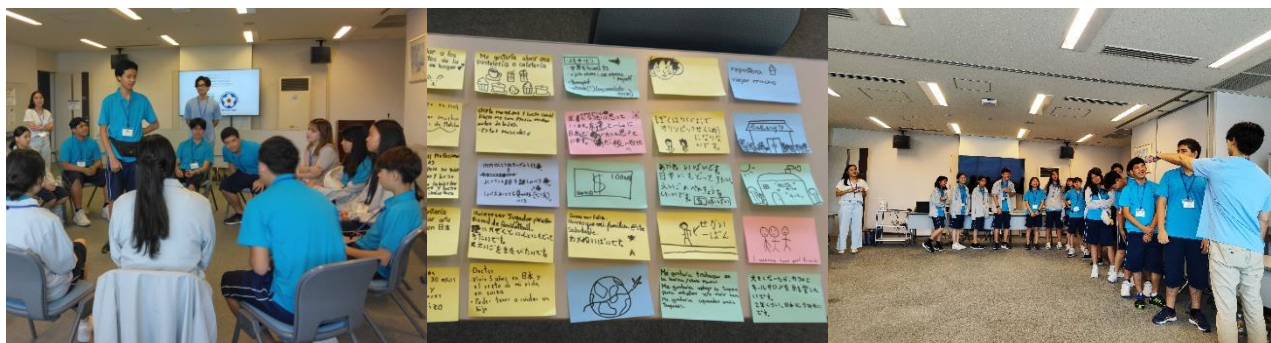
見たことのない巨大なゴミ処理装置や、ゴミから電力を発生させるシステム等の見学を通して、再生可能エネルギー、資源循環といった日本の先進的な取り組みについて理解を深めることができました。

「ごみの分別の大切さを学んだ」「これからはゴミを捨てるときもっと考えようと思った」のように自分事として捉えられるようになりました。



日本で学ぶ -日系の先輩を迎えて- 2024年6月24日(月)

JICA 日系社会リーダー育成事業ならびに日本財団スカラーシップにてパラグアイ、ペルーから現在留学中の日系留学生 3 名を講師に迎え、日系アイデンティティと将来の夢について考えるアクティビティやワークショップを行いました。



研修員の振り返りから ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

- ◇ 今日の授業はとてもおもしろいと思いました。
- ◇ につけい人という事は、日本文化とほかの国の文化とのバランスをさがす事だと思います。
- ◇ 何度も挑戦してクリアできた時にはとてもうれしかった。
- ◇ どんなに難しくてもあきらめないで挑戦すれば最後にはできることが分かった。
- ◇ 今日はたくさんのことを学ぶことができました。つかれたけどゲームは好きだった。につけいになれて幸せだった。
- ◇ 今日はせんぱいたちのかつどうでとてもたのしくすごしたので、とてもきぶんがよかったです。
- ◇ 日本でべんきょうをしたい。

移住学習 第1回目

- そもそも「移住とは何か」から、世界に広がる日系人の人数や異なる文化を理解することの必要性などについて考えました。
- 海外移住資料館の教材「移民かるた(大判)」を使用しカルタ大会を開催。カルタを通して日本人の海外移住の歴史、移住者の生活や心情、日本に住む日系人の生活や思いなど、移民に関するさまざまな事柄について、楽しくからだを動かしながら学びました。
- また海外移住資料館では、展示ポイント毎にクイズやワークを織り交ぜた「クイズでめぐる資料館ツアー」の形式で見学をしました。研修の事前課題として自身のルーツについて家族や親族等にインタビューをしていた研修員も多く、自身の祖先の体験をあてはめたり、様々な展示物や写真資料などからクイズに解答し、当時の日本人移住者の生活や海外移住の歴史について理解を深めることができました。



研修員の振り返りから ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

- ◇ きょうのじゅぎょうでは、につけいじんといみんのれきしについてたくさん学びました。すべてがとてもきょうみぶかったです。
- ◇ いろんな国で日本文化をすこしみつける事ができます。そのりゆうは研修に来る前はよくわかりませんでした。今日のじゅぎょうで、全部わかるようになりました。
- ◇ いみんの人のつらい思いをちょっとわかったけど、じぶんはそういう事をけいけんするひつようがなかったので、ぜんぶりかいすることはできないとおもう。
- ◇ きょうのじゅぎょうはとてもおもしろかったです。しりょうかんのクイズもよかったです。
- ◇ 授業はきっとたいくつだとおもったけどたのしかった。あたらしくおぼえたことばは、「移住・歴史・うけつぐ」

移住学習 第2回目

□ なぜ JICA 横浜に海外移住資料館があるのか、なぜ横浜でこの研修を実施しているのか、また横浜と移住の関係などについて学習しました。

□ また、当時の横浜移民あっせん所の様子や出港の様子、船の中の様子がわかる貴重な動画を見ました。その後、JICA 横浜周辺へフィールドワークに出ました。神奈川県庁の展望台からは移民船が出航した大さん橋や、動画で見た横浜移民あっせん所があった場所などを臨むことができました。



□ JICA 横浜のすぐ近くにはララ物資の記念碑があります。碑にきざまれた香淳皇后の詠まれた歌についても触れながら、ララ物資について詳しく学んだ研修員は、当時自分たちの暮らしもままならない中で祖国の惨状を知り力になろうとした日系人が居たことに対し、先人たちへの敬意をより一層深めました。



戦後の日本を支えてくれた ララ物資

第二次世界大戦後の日本では、みんなが食べるものや着るものに困っていました。そんな日本人たちにララというグループから食べ物や服、薬、靴や文房具などが届きました。ララは Licensed Agencies for Relief in Asia を短くした言い方です。アメリカ人をはじめ、移住した日系人が 1946 年から 1952 年までララ物資を送ってくれました。ララからのおくりものが最初に届いた横浜の港にはララの記念碑があります。



研修員の振り返りから

- ◇ 先生から移住とイノベーションのかんけいの話をきかせてもらった後にいろんなことを考えました。私は、日本とメキシコの文化の中からよい事をとって、りょうほうの国の人達におしえてあげたいと思います。
- ◇ かながわけんちょうはとてもおもしろかった。
- ◇ 今日は JICA のそとにてで、いみんかんけいのいばしょをすることができて、とてもよかったです。
- ◇ おばあちゃんがどのようにしてドミニカ共和国にきたのかをもっとしりたいとおもっていました。
- ◇ いじゅうのれきしをかながえてみた。いみんのはなしはとてもびっくりしました。

中学校体験入学

2024年6月26日(水)～28(金)

スピーチコンテスト 6月25日(火)

体験入学の前日に、「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」の中区審査会がJICA横浜で行われました。事前挨拶のときお会いした校長先生が声をかけてくださり、ますます早く中学校へ行きたくくなりました。出場したみなさんの堂々としたスピーチに混じり、私たちの仲間からもカナダの研修員がゲストとして出場させていただきました！タイトルは『日系二世として』。来日してから準備したとは思えないすばらしいスピーチに、会場から惜しみない拍手が送られました。「緊張したけれど思ったよりよくできてうれしい。こんな機会をくださってありがとうございました。」との言葉が印象的でした。

事前挨拶

6月21日(金)

体験入学1週間前には、事前挨拶にうかがいました。緊張したけれど、先生に時間割をいただいたり、部活動の種類をきいたりして、とても楽しみになりました。学校への道順や公共交通機関の乗り降りのしかたも覚ええました。



6月26日(水)～28日(金)の3日間、横浜市中区の仲尾台中学校、本牧中学校、港中学校、横浜吉田中学校の4校に体験入学をしました。体験入学初日にはいつもより早起きして、忘れ物はないか(そして余計な物はポケットに入っていないか!)などチェックをして出発。学校への道順はこれで合っているかな、自己紹介は上手くできるかな、今日はどんな一日になるかな・・・とドキドキとワクワクが入り混じった気持ちで登校しました。楽しく充実した3日間を過ごし、日本に同年代の友達がたくさんできました。以前よりももっと日本が近くなった気がします。お世話になった学校の先生方、クラスのみなさん、本当にありがとうございました。



仲尾台
中学校



本牧
中学校



港
中学校



横浜吉田
中学校

ホームステイ

2024年6月29日(土)～30(日)

研修員が楽しみにしていた1泊2日のホームステイ！

限られた時間のなかで少しでも研修員が日本の生活を体験できるようにと、ホストファミリーのみなさんがお出かけや文化体験、食事の献立まで様々に計画してくださり、研修員はかけがえのない2日間を過ごすことができました。

温かく受け入れてくださったホストファミリーのみなさん、本当にありがとうございました！



研修員の振り返りから ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

- ◇ 今日はゲームセンターとお買い物をしに行きました。その前の日には、ブルーインパルスを見に行き、ひこうきがちかくで見れました。
- ◇ むかしの家の tour をしました。小田原城ものぼりました。とても楽しかったし、おもしろかったです。日本の歴史をもっと学べた気がします。
- ◇ 夜ふかししてカラオケへ行きました。いっぱい話せるきかいがあってよかったと思っています。
- ◇ 家族の移住についてと、じぶんの国・ちいきにある「日本」についてのプレゼンテーションりょうほうホストファミリーにはっぴょうできました。とてもよかったです。
- ◇ 私は家族ととても楽しい時間を過ごしました。本当の家族と少し思えました。
- ◇ としょかんやこうえんにつれて行ってくれました。帰りにスーパーによって、買い物をてつだいました。
- ◇ わたしはホストファミリーにグアカモレ*をつくってあげました。*メキシコ料理
- ◇ 赤ちゃんとおそびました。
- ◇ 本当にたのしかったです。はじめは言葉のちがいで気分がしずむかと思いましたが、一生懸命理解しようと努力しましたし、日本の家族について多くのことを学ぶことができました。
- ◇ いっしょにおかしをつくりました。とてもおいしかったです。
- ◇ 僕にとって今日が研修で一番たのしかった日になりました。たみはすごく気持ちがよかったです。たこ焼き・すし・ラーメンを食べました。
- ◇ にほんのかぞくといっしょにすごせてとてもたのしかったです。にほんのせいかつについてしることができて、とてもきょうみぶかかったです。すてきなけいけんでした。
- ◇ わかれるときとてもかなしかったです。さびしくなります。

ファミリーヒストリーを きいてもらいました ～ わたしの中の日本 ～



研修参加にあたり、移住について家族にインタビューしたり、身の回りにある「日本探し」を行ってから来日しました。その時まとめたプレゼンテーション資料を見せながら、ホストファミリーに自己紹介をしました。自分や家族について知ってもらえてうれしかったです。

⑤Q: のこしていきたい日本文化や日本のしゅうかん



ぼくの日本語学校のうんどう会。

カナダの学校にはうんどう金みたいなユニークで楽しいことがないので、これからも日本語のうんどう会をのこしていきたいです。

ファミリーヒストリーを知って ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

「とても意欲的に自分のこと、家族のこと、自国での生活についてたくさん教えてくれたので、とても楽しかったです。」「住んでいる街についても話を聞くことができ、貴重な経験でした。」「ていねいに自己紹介をしてくれて、日系の方の苦勞とその地にしっかりと根ざしている日系の方々の様子が分かり感慨深いものがありました。」 (ホストファミリーのみなさんからのコメント)

研修旅行

2024年7月2日(火)～4日(木)

事前学習

7月1日(月)

研修旅行で訪れる予定の大阪城や東大寺などについて、グループにわかれて事前学習をした後それぞれ発表しました。



「東京や京都以前は奈良が日本の首都だったとは驚きました。」
という声も。みんな行くのが楽しみにになりました。



1日目
大阪

大阪城見学

いよいよ研修旅行の日がやってきました！新横浜から新幹線に乗って約2時間半。車窓から富士山を見たり、駅弁を食べたり…あっという間に大阪に到着です。新大阪からバスで走ること約15分。近代的なビルが立ち並ぶ大阪の街に、大阪城が見えてきました。「長いあいだ大阪城に行きたかったのでとても楽しみにしていました。大阪城の中には、いろいろなおもしろい、美しい昔の物がおかれていました。とてもかんどうしました。」というコメントが聞かれました。



2日目
奈良
草木染体験
東大寺見学

奈良では、昔ながらの自然が残る奈良県明日香村にたたずむ工房で草木染めを体験しました。材料や手順、古代から受け継がれているもよりの美しさについても知ることができました。はるか昔から日本人が自然とともに生きていたことがわかりました。きれいに染まってみんな大満足。できあがったハンカチは「おばあちゃんにあげたい」という研修員もいました。



工房では、地域の方々がこの日のためにとおはぎを用意してくれていました！



思いがけず手作り和菓子の味も体験することができました。バスが出るまで炎天下の

なか見送ってくださった工房の方々に、研修員も車中から手を振って感謝しました。



午後からは東大寺を訪れ、大仏の大きさ、すばらしさに圧倒されました。「昔にそんなに大きい像を作れたのはとてもすごいと思います。」と研修員。東大寺への行き帰りには、たくさんの鹿とふれあうことができました。すこし怖かったけれど一番印象にのこったという声も聞かれました。



3日目

神戸

海外移住と文化の
交流センター見学

神戸では「海外移住と文化の交流センター」を訪問。ここは「国立移民収容所」として南米に移住する人たちが準備のため実際に宿泊していた場所です。以前は長崎と横浜にも移住者が宿泊した場所がありましたが、現存している建物はここ神戸だけとなりました。



見学後は、神戸港までの道のり（移住坂）を徒歩でたどり、かつての移住者たちがどんな気持ちでそこを歩いたのか思いをはせました。



研修員の振り返りから

- ◇ 移住したいという強い思いを感じた。
- ◇ 歩かなければならない距離に驚いた。
- ◇ 多くの荷物を持ってここまで歩けるなんてすごいと思った。
- ◇ 船の中で何をしようか考えていたと思う。



- ◇ 移住先の国でいい生活ができるのかなと思っていたと思う。同時に日本を離れるのがさみしかったと思う。
- ◇ 新しい場所に慣れること、新しい友達を作ることが不安だったと思う。でも新しい所で生活しコミュニティに入るのは楽しみだったと思う。
- ◇ 移住者の苦勞を体験し、くたびれたけど、経験したおかげで分かるようになった。



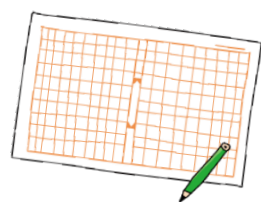
作文(国語、報告書作成)

2024年7月5日(金)

作文が研修員たちの報告書です。約3週間にわたる日本での研修を振り返り、いちばん印象に残ったことを作文に残しました。

今回の体験や学習を通して得たたくさんの気づきや自身の成長を言葉にするのはとても難しい作業でしたが、はじめに国語の授業を受け、感じたこと・考えたことの整理の仕方や作文の構成・タイトルの付け方などを教わり、なんとか書き進めることができました。国語の先生以外にも、日系の先輩たちなど多くの方がヘルプに駆けつけてくれ、漢字や日本語での表現などを教えてくれました。

作文のほかに、「次の研修員に伝えたいこと」も書いてもらいました。飾らない言葉から、ストレートな気持ちが伝わります。作文とともに残しておきたいメッセージです。



研修員の振り返りから

- ◇ 手がいたくてあきらめるところでしたが、あきらめなくて良かったです。
- ◇ とても大変でした。作文を書いたので手がとてもカタカタでした。うごけないくらい。
- ◇ まだ自分がどう変わったかわかりませんが、私の人生に大きいえいきょうをあたえたと思います。この研修に行くことができて本当にありがたいです。
- ◇ 今日の作文はけっこうこころをこめてほんきで書きました。あとでめっちゃつかれた。
- ◇ 作文を作る時にストレスな気持ちでしたが、私の気持ちやかんがえを人につたえたかったので、がんばってみました。
- ◇ とてもたいへんでストレスもありましたが、あきらめられなかった。後輩へのメッセージも「あきらめないで」と書きました。

次の研修員に伝えたいこと



後輩へのメッセージ

研修修了の前日！！

2024年7月8日(月)

- いよいよ研修も修了。明日の研修員報告会の準備をしました。担当テーマをグループごとに選び、パソコンを使って協力しながらプレゼンテーションデータを作成。原稿も準備して、日本語で発表する練習もくりかえし行いました。
- また、帰国のための準備をしました。帰国当日のお部屋のチェックアウト方法や集合時間、ホテルの出発時間などを確認。預け入れ荷物や手荷物のルールを確認したあと、少し早いですが荷づくり開始！あと数日のあいだ使うものだけを残し、パッキングしました。家族へのお土産など、日本ですごした分だけ荷物も増えているので詰めるのにひと苦労でした…

閉講式

閉講式では JICA 中南米部の小原学部長より、この研修で感じた気持ちや育んだ友情を忘れずこれからも日本語や日本について勉強を続け、日系社会のリーダーとして日本とみなさんの国、そして世界を結ぶ架け橋となってほしいというエールが研修員におくられました。



つづいて、お世話になった中学校を代表し横浜市立港中学校の緒方浩臣校長先生からもご挨拶をいただきました。

演台に立った緒方校長先生のお顔を見た瞬間、満面の笑顔を見せた研修員たち。本当に楽しく充実した体験入学だったことが表れていました。



その後、研修員一人ひとりの名前が呼ばれ、修了証書が授与されました。

閉講式の最後に、研修員代表がこの研修をふりかえり、スピーチしました。



研修員代表スピーチ

この3週間は、私たちの人生で最も素晴らしい3週間でした。

まず、私たちを受け入れてくれて、日本の言葉や文化の素晴らしさを教え、見せてくれた JICA とそのスタッフ、また ホームステイ先の家族や、中学校の先生方に、どれだけ感謝しても感謝しきれません。私たちはみんな、この3週間のたくさんのやさしさと素晴らしい人たちのことを決して忘れることはないでしょう。

私たちの多くが、異なる国から来た初対面の人たちと会うことに最初はとても緊張し、何を期待しているのかわからなかったことは確かです。でも私たちのほとんどに言葉の壁があったとしても、そんなことはまったく関係なかったです。

私にとっても、他のみんなにとっても、私たちは 100% 最高のクラスメートであり、友達です。この JICA のけんしゅうは、本当に素晴らしいものでした。今回の学びと知識を活かして、私たちが日本人の一面を前よりも少しでも多く受け入れ、この何人かは、日本で学び、日本で暮らすために戻ってくることを願っています。短い時間でしたが、この素晴らしい経験は私たちの心に永遠に残ることでしょう。ありがとう、JICA。





送別会

閉講式後、横浜市立横浜吉田中学校の亀井孝洋校長先生に乾杯のご挨拶をいただき、全員で研修の修了を祝いました。

お世話になった先生方ほか、研修に関わってくださったすべての方への感謝を込めて、みんなで選び、毎晩練習をしてきた『ひまわりの約束』を合唱。

歌詞に想いがかさなって涙があふれました。



離れるのはさみしいけれど、帰りを待っている家族のもとへ無事に帰国すること、また今の日本のことや研修で学んだことをたくさんお話ししてくれるようにと JICA 横浜センターの大野所長より閉会の挨拶があり、研修は終了となりました。

お世話になった皆さま、本当にありがとうございました。



中学校のみなさんに向けた寄せ書きをお渡ししました



帰国

2024年7月10日(水)・12(金)

初めはぎこちなかった15人でしたが、24日間の研修生活で結んだ強い絆を胸に、それぞれの国へと帰路につきました。国や地域や言語がちがってもつながれる・分かり合える、ということをも身をもって知った研修員たちがリードしていくこれからの日系社会が楽しみです。



2024年度 日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）第1陣

5. 引率者の所感

メキシコ
日本メキシコ学院
赤星 美妃

本研修が無事終了し、改めて振り返ると、参加した中学生たちの成長ぶりには目を見張るものがありました。カナダ、メキシコ、ドミニカ共和国、コロンビア、ベネズエラの5か国から集まった15名の子どもたちが、見るもの、聞くことすべてが新鮮で、毎日が驚きと発見の連続であった24日間でした。

初めは言葉の不安やホームシックに悩む子どももいましたが、すぐに他の国の子どもたちとも打ち解け、毎日が夢のような日々となりました。毎晩提出してくれた振り返りシートには、苦手な日本語でも一生懸命に漢字を使って、その日学んだことや感じたことを記してくれました。

自国では、安全上、一人では外出を許されない環境にある子どもたちが、日本では子どもたちだけでコンビニや学校に行くことができたことは、大きな自信となったことでしょう。また、おじいさんやおばあさんたちの移住時の体験談、そして研修中に訪れた横浜の海外移住資料館や神戸の海外移住と文化の交流センターでの学びは、私にとっても日系移民の歴史を知る貴重な機会となりました。

子どもたちは、研修を通じて日本文化への理解を深めただけでなく、日系人としてのアイデンティティを再認識し、強化することができたようです。多くの参加者が、自分のルーツや文化に対する自信を持ち、今後の成長に向けた意欲を高めているのを感じました。

閉講式では、みんなが歌ってくれた「ひまわりの約束」の歌詞にあるように、「もしも僕らが離れても、それぞれ歩いていくその先で、また出会えると信じて」、また一回り大きく成長した子どもたちと再会できることを楽しみにしています。

最後になりますが、この貴重な機会を提供してくださったJICAの皆様、朝から晩まで親身にサポートしていただいた海外日系人協会の皆様、一緒に子どもたちの成長を見守ってくださった健康・安全管理員のユリ子先生、マリエラ先生、悟先生に心より感謝申し上げます。ありがとうございました！

6. 総評

明治元年（1868年）、サトウキビプランテーションの労働者としてハワイへ渡ったことから始まる日本人の海外移住は約150年の歴史を有しています。その間、米大陸各国、各地域の日系社会では日本語学校を中心にコミュニティを形成し、今日まで継続してきています。しかしながら、世代が進むにつれ、日本語学校に通う日系子弟の減少、日系コミュニティへの帰属意識の低下や日系アイデンティティの希薄化といった問題が顕在化し、日本とのつながりもだんだんと弱くなってきているのが現状です。

そのような現状に鑑み、本研修は、次世代の日系社会を担う人材育成の一環として、「日本人の海外移住の歴史に関する学習、その他各種研修を通じて自分たちのルーツ、日本文化、習慣等を学んでもらい、日本に対する理解を深めることで、自らの日系人としてのアイデンティティを強化すること」を目的としています。

1987年度より始まり30年以上継続実施してきた訪日研修でしたが、2020年度には新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、その影響から3年間に及び、研修の中止を余儀なくされました。その間、このような状況下にいる日系子弟が同年代の日系人と共に日本文化や祖先の海外移住について学べるようにと、訪日研修に代わるオンラインプログラムを実施し、多くの日系子弟に学習の機会を作ってきました。しかしながら、各国の日系日本語学校からは、訪日研修への参加を目標に日本語学習に励んできた生徒たちにとって、長年の目標に挑むこともできなかったこの期間は、もどかしい想いを抱えた3年間だったとも報告されています。

こうしたコロナ禍を経て、ようやく2023年度より訪日研修が再開され、実施を継続しています。研修では日系アイデンティティの涵養・強化を企図した移住学習を通じ、身近な家族の歴史や自らのルーツを確認するとともに、祖先への敬意や当時の移住者への共感を育むプログラムを構成。また、日本の伝統文化や現代事情に触れる機会、中学校体験入学やホームステイといった日本人との交流体験を通じ、日本及び日本人とのつながりに対する誇りや絆を感じることができるプログラムを実施しました。

加えて次世代の日系社会を担う人材としての人間力向上を企図し、本研修のプログラムでは、日本的価値観に触れ知見を深めることにより、研修員自身が居住国と日本の相違点、双方の持つ良さ、さらには両国の発展のために自らが実現できることについて考えられるようプログラムを構成しました。

カナダ、メキシコ、ドミニカ共和国、コロンビア、ベネズエラからの研修員15名は、集団生活を共にする中でコミュニケーションの方法を学び合い、またお互いを通して世界に広がる日系社会の存在や共通する価値観について認識することができました。24日間という限られた時間の中、移住学習をはじめとした様々な講義や体験入学、ホストファミリーとの交流といったプログラムを通じて、研修員たちは可能な限り「日本」を知ろうと色々なことにトライし、新しい経験から多くのことを吸収しました。思考力・知識量においてもまだまだ成長段階である研修員にとって、今後の明確

なアクションプランを現時点で打ち出すことは容易ではありませんが、本研修での学習をきっかけに、日本人移住者が移住先国で大切に受け継いできた日本文化の価値や継承方法について、継続して思考を深めていくことにより、次世代を担う彼らは自身に必要な力を見極め、今後も成長していくのではないのでしょうか。

研修員同士、そして日本で出会った人々との交流を通じて、日系社会及び日本社会との連携を可能にする若い力が芽を出したことは本研修の大きな成果であったといえます。本研修に参加した一人ひとりが自分たちのアイデンティティ、日系人の強みや可能性を生かし、お互いのコミュニティを結ぶネットワーク作り、そして南米と日本との関係をつなぐ架け橋として活躍してくれることを期待しています。

2024 年度

「日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）」

募集要項

2024 年 1 月



独立行政法人国際協力機構（J I C A）

目次

【研修の沿革および目的】	1
【研修員】	1
1. 対象国および受入計画数	1
2. 研修概要	1
3. 資格要件	2
4. 所要経費	2
5. 応募書類	3
6. 応募書類の提出締切と提出方法	5
7. 受入決定	5
8. 研修員の資格取り消し	6
9. JICA横浜の施設利用制限	6
10. その他	6
【引率者】	7
1. 引率者の招へい	7
2. 2024年度引率者選出国	7
3. 資格要件	8
4. 所要経費	8
5. 応募書類	9
6. 応募書類の提出締切	10
【注意事項（研修員・引率者・ご家族の方）】	11
別紙1 研修員 応募書類様式	
別紙2 引率者 応募書類様式	
別紙3 研修員・引率者共通 応募書類様式	

2024 年度

「日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）」

募集要項

【研修の沿革および目的】

本研修は、中南米地域等への移住者の定着・安定のために移住者子孫教育として 1987（昭和 62）年度に「日本語学校生徒研修」として開始し、2012（平成 24）年度からは、名称を「日系社会次世代育成研修」、2015（平成 27）年度からは「日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）」として実施しています。本研修では、海外の日本語学校に在籍する成績優秀かつ品行方正で将来の日系社会の発展に貢献するのに十分な素質のある日本語学校生徒が、日本人の海外移住の歴史に関する学習、中学校体験入学、ホームステイ、その他の各種研修を通じて、自分たちのルーツに対する理解と日本に対する理解を深め、さらに自らの日系人としてのアイデンティティの強化を図ることを目的としています。さらには、本研修が日系社会での日系継承語教育の振興を促し、日系社会の次代を担う人材の育成に寄与することを上位の目標としています。

【研修員】

1. 対象国および受入計画数

対象国：10 カ国

受入計画数：49 名（+引率者 8 名）

受入		対象国	人数
第 1 陣	5 カ国 13 名 (+引率者 4)	カナダ	4 名
		メキシコ	3 名
		ドミニカ共和国	4 名
		コロンビア	1 名
		ベネズエラ	1 名
第 2 陣	5 カ国 36 名 (+引率者 4)	ブラジル	20 名
		ペルー	4 名
		ボリビア	3 名
		パラグアイ	3 名
		アルゼンチン	6 名

2. 研修概要

プログラム	内容	研修場所
移住学習	海外移住資料館等の見学 移住に関する講義、ワークショップ	JICA 横浜 史跡、博物館等

	各研修員のルーツを探る	
体験入学	授業出席 部活動 日本の中学生との交流等	神奈川県内の中学校（予定）
ホームステイ	日本での実生活体験	各ご家庭（県は未定）
研修旅行	日本の文化・社会・科学技術等の理解	未定
その他	プレゼンテーション指導 作文指導 研修報告会	JICA 横浜及び周辺の会議室

【重要】実際の研修内容が上記から変更となる可能性があります。

(2) 研修期間（予定）：24 日間

第 1 陣：2024 年 6 月 17 日（月）から 7 月 10 日（水）を予定

第 2 陣：2025 年 1 月 14 日（火）から 2 月 6 日（木）を予定

3. 資格要件

応募者は、次の要件をすべて満たしていなければなりません。

(1) 海外移住者及び概ね日系 3 世までの海外移住者の子孫（※）であること。

※日本人移住者の血統を引く者を指します。

※本事業対象国に定住していること（主たる生活基盤があること）。

(2) 研修参加時点での年齢が日本の中学生相当（12 歳以上、15 歳以下）であること。

(3) 現地の日系団体が運営する日本語学校に在籍し、成績優秀、品行方正かつ将来の日系社会の発展に貢献するのに十分な素質があると認められること。

(4) 自分のルーツや日本に対する理解を深める強い意志があること。

(5) 心身ともに健康であり、本邦での集団生活に耐えられること。

(6) 来日から帰国まで JICA 指定の全日程に参加できること。

(7) 親権者の同意が得られること。

※共同親権が法制化されている国においては、全親権者の同意が得られること。

4. 所要経費

規程に基づき次の経費を JICA が負担します。（ただし、渡航便は原則、JICA の指定する便での渡航とします。）

(1) 指定する経路の往復航空運賃（ただし、航空券の現物支給とし、現金の支給は行いません。航空券取得に必要な税金等、国際航空施設使用料も JICA が負担します。）

(2) 本邦国際空港と宿泊施設間の移動に係る経費

(3) 乗継のための第三国での宿泊に係る経費

※自国内移動の際に生じる宿泊に係る経費は自己負担です。

※6時間未満の滞在は対象外です。

(4) 本邦滞在中及び乗継のための第三国滞在中生活費（食費）は、規定に応じて来日後に日本円で支給します。

※日をまたがない6時間以上の第三国滞在は対象外です。

〈支給額〉

1) 本邦滞在中 生活費 2,200円/日 ※朝食及び夕食費として

(ただし、現物支給されない日のみ現金支給とする。)

2) 第三国滞在中 生活費 4,000円/日 ※朝食費、昼食費及び夕食費として

(4) 宿泊施設の利用料金

(5) 海外旅行保険料

原則として、居住国の国際空港を出発した時から帰国した日の国際空港到着時点までが保険対象期間です。

※本邦到着後、保険証（メディカルカード）を配付します。

研修中の傷病については保険が適用され、原則診療費の支払は生じません。

但し、既往症や歯科治療は保険適用外です。

〈留意事項〉

各国の国内線利用区間は保険対象外です。必要な場合は各自で加入してください。

(6) 所外研修、中学校体験入学、ホームステイ、研修旅行のために係る横浜での滞在先と訪問先の間の日復旅費

(7) 研修先に対する研修経費

5. 応募書類

応募書類は以下のとおりです。

- ・作成の際は、2024年研修初日時点の情報を記入してください。
- ・JICA様式を使用してください。

(1) JICA様式

1) 日本語学校責任者推薦書

(様式第1号)

2) 身上書

(様式第2号)

・パソコン入力可。

・氏名（日本語）：

この書類に書かれた氏名表記（漢字・ひらがな・カタカナ）にしたがって、査証手続き書類を作成しますので、自筆の場合は読みやすい字で、渡航時に使用する旅券

に記載の表記どおりに記入してください。漢字・ひらがな・カタカナのどの文字を用いるかについても、注意してください。

・氏名（アルファベット）：

この書類に書かれた氏名表記（アルファベット）にしたがって、航空券の予約の確認等を行います。自筆の場合は読みやすい字で、渡航時に使用する旅券に記載の表記どおりに記入してください。スペル、名字と名前の順番、ミドルネームの有無にも注意して記入してください。旅券と航空券の氏名表記が異なると、搭乗できなくなります。

※旅券をこれから申請する方は、必ず旅券申請する氏名表記で記載してください。

旅券と査証、航空券の氏名表記が異なると、渡航できなくなりますので注意してください。

・国籍：渡航に使用する旅券に記載されている国籍を記入してください。

※国によって短期滞在査証が免除となる場合があります。詳細については JICA 事務所からの指示に従ってください。

3) 親権者の誓約・同意書

(様式第 3 号)

・サインは必ず親権者を書いてもらってください。

4) 病歴申告書

(様式第 4 号)

・パソコン入力可（署名は自筆）

・2024 年度より応募時は医師による健康診断書の提出は不要です。JICA 様式による自己申告です。仮合格者は、病歴申告書の記載内容によっては、医師の診断書の提出が必要になる場合があります。

・提出前に未回答項目や記入漏れがないか、確認してください。

・既往症、服薬中の薬、アレルギー等の持病も、必ず申告してください。

・現在治療を受けている疾患があれば、応募時に研修参加に支障がない旨の主治医の診断書も提出してください。

・既往症や服用中の薬、アレルギーがない場合も、記載内容によって主治医の診断書を提出していただく場合があります。

・研修期間中に既往症や持病が悪化した場合、国内医療機関受診時に発生する医療費は海外旅行保険適用外のため全額自己負担となります。

※本邦到着後、保険証（メディカルカード）を配付します。

研修中の傷病については保険が適用され、原則診療費の支払は生じません。

但し、既往症や歯科治療は保険適用外です。

※記入事項に虚偽があると判明した場合には、研修に参加できなくなる可能性があります。

(2) 写真 2 枚（データ可）

- ・最近 6 ヶ月以内に撮影したもの。（縦 4.5cm×横 3.5cm、上半身、正面、脱帽、裏面に氏名・国名を記入）

※1 枚は身上書に貼付け、もう 1 枚はデータで他の応募書類とともに提出してください。

(3) 作文（日本語）

- ・400 字詰原稿用紙 3 枚以内（1000 字程度）。課題は JICA 在外事務所が指定します。
- ※応募者本人が自筆した作文を提出してください。

(4) 旅券の写し

5. (1) 2) 身上書に記載した、渡航時に使用する旅券の写しを提出してください。

①既に旅券を所有している場合

査証や出入国記録が残されている全てのページを提出してください。

②旅券を所有していない場合

JICA からの可否の通知を待つことなく直ちに旅券の取得手続きを開始してください。また、5. (1) 2) 身上書に記載した氏名表記を至急ご連絡ください。

※可否に関わらず、旅券取得経費については自己負担です。

(注) 提供された個人情報 は、①可否の判定、②研修受入の手続き、③事業実績の取りまとめ等に利用します。

6. 応募書類の提出締切と提出方法

(1) 応募書類の提出締切

在外事務所の選考スケジュールに従い提出してください。

(2) 提出方法

各在外事務所の指定の方法で提出してください。

7. 受入決定

応募書類を基に JICA 横浜にて最終選考を行い、仮合格通知を発送します。その後、外務省の短期滞在査証発給審査を経て正式に受入回答を行います。

8. 研修員の資格取り消し

研修員が次の事項に該当する場合、JICAはその資格を取り消すことがありますので、以下については、特に注意してください。

- 1) JICAの規則、指示及び決定に従わなかったとき
- 2) 研修先の規則に違反した場合
- 3) 日本国の法令に違反した場合
- 4) 本人の故意、重大な過失又は怠慢等により、研修を継続することが困難と認められるとき
- 5) 本人の都合により研修を中断したとき
- 6) 心身の障害、傷病等のために研修を継続することが困難と認められるとき
- 7) 応募書類の記載事項に虚偽が発見されたとき
- 8) その他 JICA が止むを得ないと認める事由があるとき

9. JICA 横浜の施設利用制限

2024年度は JICA 横浜の施設改修工事が行われているため、施設利用が制限されています。本研修プログラムは周辺施設にて実施されることがあります。

10. その他

新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により、研修プログラムの変更、または来日中止となる可能性があります。

- ・引率者（健康・安全管理員）3名・・・ペルー、ボリビア、パラグアイ、アルゼンチン

3. 資格要件

(1) 引率者（日本語学校教員）

- 1) 満20歳以上で、日本語学校での勤務歴2年以上であること。
- 2) 日本語学校での教師歴が2年以上あること。
- 3) 研修員と同年代の子弟を対象としたクラスを担当した経験があること。
- 4) 日本語能力は、1世の先生でない場合は日本語能力試験N2程度以上であること。
- 5) 健康で責任をもって業務を遂行できること。

(2) 引率者（健康・安全管理員）

- 1) 20歳以上の日系社会の関係者（日本語学校教員、日本人協会会員、JICA帰国研修員等）であること。
- 2) 日常的に日系社会で研修員と同世代の子弟と接している方が望ましい。（参加研修員の保護者は対象外）
- 3) 日本語能力は日常会話程度以上。研修員とスペイン語/ポルトガル語で意思疎通ができること。
- 4) 健康で責任をもって業務を遂行できること。

4. 所要経費

規程に基づき次の経費をJICAが負担します

- (1) 指定する経路の往復航空運賃（ただし、航空券の現物支給とし、現金の支給は行いません。航空券取得に必要な税金等、国際航空施設使用料もJICAが負担。）
- (2) 本邦国際空港と宿泊施設間の移動に係る経費
- (3) 乗継のための第三国での宿泊に係る経費
※自国内移動の際に生じる宿泊に係る経費は自己負担です。
※6時間未満の滞在は対象外です。
- (4) 本邦滞在中及び乗継のための第三国滞在中の生活費等は、規定に応じて来日時に日本円で支給します。
※日をまたがない6時間以上の第三国滞在は対象外です。

<支給額>

- 1) 支度料 10,000円
- 2) 本邦滞在中 生活費：4,298円/日（食事の現物支給がない日。）

【内訳】食費1,100円×3食＋雑費998円

※現物支給がある日は、その回数に応じて差し引いて支給されます。

3) 第三国滞在中 生活費：4,000 円/日（朝食費、昼食費及び夕食費として）

※航空会社が手配したホテルに宿泊する場合、食事が提供されることがあります。その際は生活費が支給されないことがあります。

(4) 宿泊施設の利用料金

(5) 海外旅行保険料（往路・研修期間・帰路に係る期間。）

※原則として、居住国の国際空港を出発した時から帰国した日の国際空港到着時点までが保険対象期間です。但し、各国の国内移動区間は対象外です。

本邦到着後、保険証（メディカルカード）を配付します。

研修中の傷病については保険が適用され、原則診療費の支払は生じません。

但し、既往症や歯科治療は保険適用外です。

(6) 所外研修や研修旅行等に係る横浜での滞在先と訪問先のための往復旅費

(7) 研修先に対する研修経費

5. 応募書類

応募書類は以下のとおりです。

- ・作成の際は、2024 年研修初日時点の情報を記入してください。
- ・様式は、本実施要領とともに配布された様式を使用してください。
※改訂されているため、過去の様式は使用しないでください。

(1) JICA 様式

1) 身上書（引率者用）

（様式第 5 号）

- ・パソコン入力可。
- ・氏名（日本語）：

この書類に記載の氏名表記（漢字・ひらがな・カタカナ）にしたがって、短期滞在査証の申請書類を作成しますので、自筆の場合は読みやすい字で、渡航時に使用する旅券に記載の表記どおりに記入してください。漢字・ひらがな・カタカナのどの文字を用いるかについても、注意してください。

- ・氏名（アルファベット）：

この書類に記載の氏名表記（アルファベット）にしたがって、航空券の予約の確認等を行います。自筆の場合は読みやすい字で、渡航時に使用する旅券に記載の表記どおりに記入してください。

※旅券をこれから申請する方は、必ず旅券申請書に記入する氏名表記で記載してください。旅券と航空券の氏名表記が異なると、渡航できなくなりますので注意してください。

- ・国籍：渡航に使用する旅券に記載されている国籍を記入してください。

※国によって短期滞在査証が免除となる場合があります。

詳細については JICA 事務所からの指示に従ってください。

2) 小論文（日本語または英語）

（様式第 6 号）

・パソコン入力可

※様式に記載されているテーマについて執筆してください。

3) 写真 2 枚（データ可）

・最近 6 ヶ月以内に撮影したもの。（縦 4.5cm×横 3.5cm、上半身、正面、脱帽）

※1 枚は身上書に貼付けてください。もう 1 枚はデータで他の応募書類とともに締切日までに提出してください。

4) 誓約書（引率者用）

（様式第 7 号）

5) 病歴申告書

（様式第 4 号）

・パソコン入力可（署名は自筆）

(2) 旅券の写し

5. (1) 1) 身上書に記載した、渡航時に使用する旅券の写しを提出してください。

①既に引率者が旅券を所有している場合

査証や出入国記録が残されている全てのページの写しを取り付けてください。

②引率者が旅券を所有していない場合

JICA 横浜からの受け入れ回答を待つことなく直ちに旅券の取得手続きを始めてください。また、5. (1) 1) 身上書に記載した氏名表記を至急ご連絡ください。

※旅券取得経費については自己負担となります。

6. 応募書類の提出締切

(1) 応募書類の提出締切

提出締切日は、貴国の選考スケジュールに従ってください。

(2) 提出方法

各在外事務所の指示に従ってください。

【注意事項（研修員・引率者・ご家族の方）】

1. 研修参加にあたって

- (1) 新型コロナウイルス感染等の影響により、研修プログラムの変更または来日が中止となる可能性があります。
- (2) フライトスケジュールは JICA 在外事務所が決定の上、合格者に連絡します。
- (3) 滞在延長や帰路変更は、研修員/引率者の自己負担であっても認められません。
研修終了後は JICA が定めるスケジュールで帰国してください。
- (4) 原則として、往路・復路とも研修員が集合し、集団で渡航します。
- (5) 家族の同伴は認められません。

2. 仮合格通知受領後の提出物

(1) 肖像権および個人情報使用承諾書

本研修期間中、JICA が契約するカメラマン又は委託先が、広報（各種報告書含む）用として写真及び動画の撮影を行いますので、写真及び動画の使用目的等について確認のうえ、署名してください。研修員用と親権者用があります。

(2) 医師の診断書

- ・ 応募時に提出された病歴申告書の記載内容によっては、医師の診断書の提出が必要になる場合があります。
- ・ 応募時点で治療を受けている疾患があれば、応募時に病歴申告書に加え、研修参加に支障がない旨の主治医の診断書を提出してください。

3. 渡航準備

(1) 旅券

旅券を所持していない研修員と引率者は、早急に申請手続きを開始してください。

仮合格の連絡を受けてから旅券取得手続きを開始すると、査証取得が間に合わないおそれがあります。

※日本旅券を申請する場合には、戸籍謄本の取得等に時間を要します。

(2) 査証

- ・ 日本以外の旅券で渡航する場合

※査証は、日本の外務省で審査が行われた後、居住国の日本領事館に申請し、発給されます。国によっては短期滞在査証が免除される場合がありますので、JICA 事務所の指示に従ってください。

※身上書には、渡航時に使用する旅券に記載の国籍を記載してください。

(3) その他必要書類

- ・日本旅券で渡航する研修員・引率者については、居住国における身分証明書等、在住国に居住していることを示す書類等を、念のため持参してください。（原本の持参が難しい場合には写しを持参してください。）
- ・居住国や経由する国によって査証以外の書類（未成年者の渡航に対する親権者の承諾書等）が要求されることがあります。

帰国時、未成年の日本人が片道航空券で居住国に渡航するようにも見えるため、帰路の空港でのチェックイン時に航空会社から当該研修員・引率者が貴国に居住している（永住権・定住権等がある）ことを示す書類の提示を求められるケースがあります。

4. 滞在中及び帰国時

- (1) 2024年度は JICA 横浜で施設の改修工事が行われています。
 - ・宿泊棟が利用できない場合、周辺の宿泊施設に宿泊します。
 - ・セミナールームが利用できない場合、研修プログラムは周辺施設で実施します。
- (2) 中学校体験入学の際、受入校の高校受験準備のため3年生（15歳相当）のクラスでは研修員を受け入れられないことが多く、15歳の研修員であっても中学1～2年（13～14歳相当）のクラスに入ることが多いですが、ご了承ください。

以上

別紙1 研修員 応募書類様式

- ・日本語学校責任者推薦書（様式第1号）
- ・身上書（様式第2号）
- ・親権者の誓約・同意書（様式第3号）

別紙2 引率者 応募書類様式

- ・身上書（様式第5号）
- ・小論文（様式第6号）
- ・誓約書（様式第7号）

別紙3 研修員・引率者共通 応募書類様式

- ・病歴申告書（様式4号）